

# 業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2024. 6. 14

No. 717

## 諸制度の導入及び一部制度の変更について

本部は、6月14日提案を受けました。以下、報告します。

### 1. 提案したいこと

次の2.～5.に掲げる制度の導入及び制度の一部変更を実施すること。

### 2. フレックスタイム制度

#### (1) フレックスタイム制とは

フレックスタイム制は1箇月など一定の期間（清算期間）の総労働時間を定め、労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることによって、生活と業務との調和を図りながら効率的に働くことができる制度である。（根拠法：労働基準法第32条の3）

#### (2) フレックスタイム制導入の目的・メリット

予め働く時間の総量（総労働時間）を決めた上で、日々の出退勤時刻や働く長さを労働者が自由に決定することができるので、日々の都合に合わせて、労働者が時間プライベートと仕事に自由に配分することができるため、プライベートと仕事とのバランスが取りやすくなる。

#### ■通常の労働時間制度



#### ■フレックスタイム制（イメージ）



#### (具体例)

経理処理等の事務作業を所管する部署では、月の業務波動に応じた労働時間の設定が可能となるため、効率的な働き方につながる。

### (3) 会社に導入するフレックスタイム制の概要

#### 【制度導入時に設定が必要な項目】

項目	設定	備考
対象社員	日勤1種勤務 <sup>※1</sup>	
コアタイム	11時～15時	休憩（12時～13時）
フレキシブルタイム	8時～11時、15時～20時	
標準労働時間	7時間50分	
清算期間	1ヵ月	毎月1日が起算日
所定労働時間	標準労働時間×労働日数 <sup>※2</sup>	<sup>※2</sup> 1ヵ月間の暦日数-休日等-休暇

※1 社内の各本部、部、室及び中央研修センター並びに事業開発支店、支社に勤務する者のうち、日勤1種又は日勤1種に準ずる勤務が適用されている者を対象にフレックスタイム勤務並びに在宅勤務制度を導入すること。

### (4) 日勤1種勤務とフレックス勤務の比較（労働時間、休日数）

#### 【2024年度】

項目	フレックス勤務	日勤1種
年間労働時間	1,903時間30分	1,910時間30分
休日数	122日	122日
うち、公休日	52日	52日
特別休日	70日	57日
調整休日		13日

#### 【2023年度】（参考）

項目	フレックス勤務	日勤1種
年間労働時間	1,911時間20分	1,907時間40分

### 3. 在宅勤務制度

人事第2023-00044号（2023年4月27日）「在宅勤務の実施について（通達）」及び別紙「在宅勤務の具体的取扱い」を基本とするが、利用回数の上限を週3回から週2回に変更する。

### 4. 配偶者同行休職制度

次の条件を満たす場合に3年以内で会社が承認した期間を休職できる制度

- ・同居している配偶者等の転勤により新たに転居が必要となった場合
- ・結婚により新たに配偶者となる者が就労している場合で、配偶者等と同居するために転居が必要となった場合

### 5. 育児・介護短時間勤務（一部変更）

育児短時間勤務、介護短時間勤務を適用した場合、定期昇給額、賞与の支給額を減額しないようにする。

### 6. 実施日

2024年7月1日

---

## 7. その他

本社内の各本部、部、室及び中央研修センター並びに事業開発支店、支社に勤務する者のうち、日勤1種又は日勤1種に準ずる勤務が適用されている者を対象に導入するが、社内の利用状況を見極めながら、勤務パターンを工夫することにより、適用対象の拡大を図っていく。

以 上

---